

「地域キャリア教育支援協議会設置促進事業」実施報告書

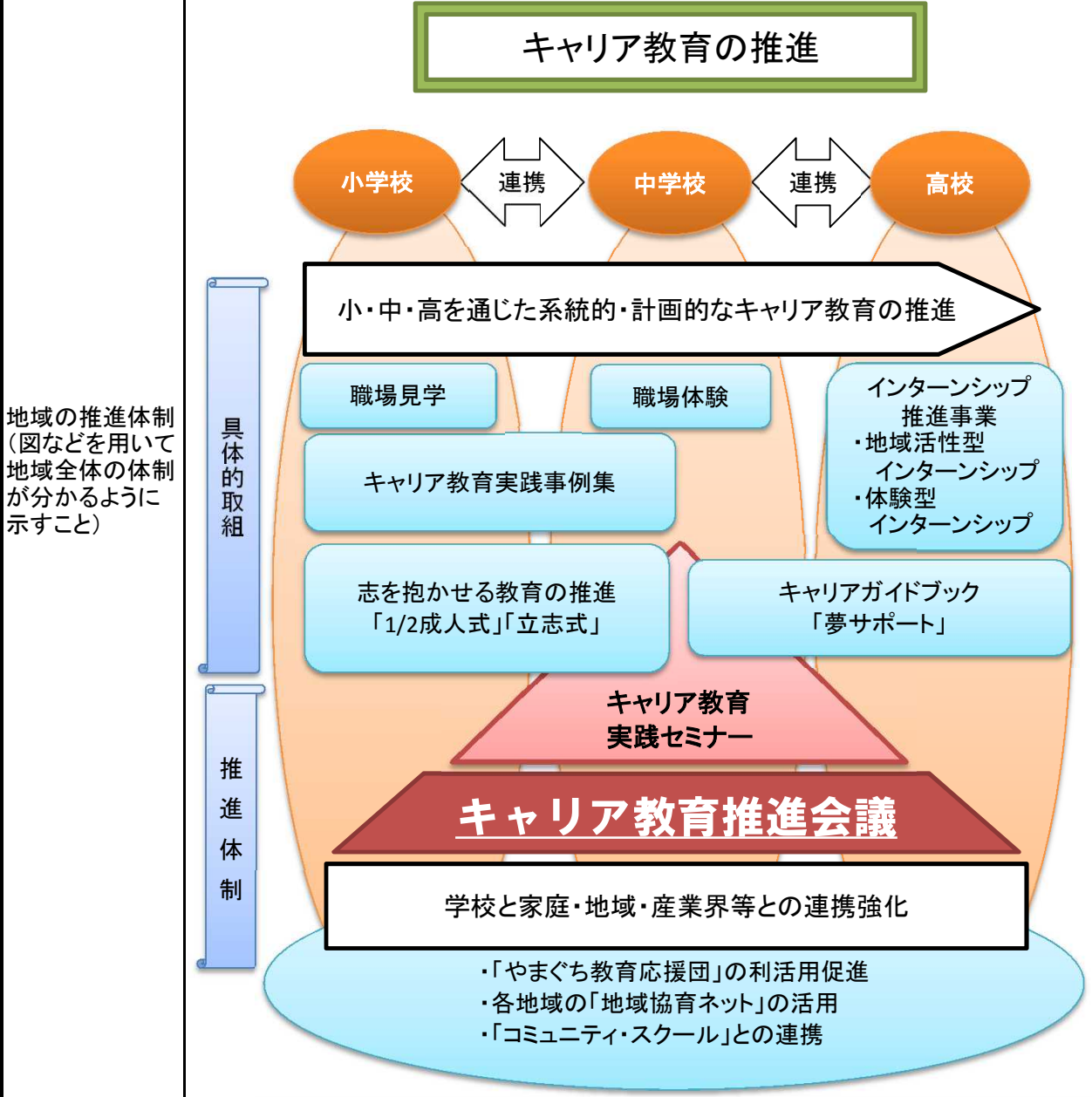
| | |
|--------------------------------|--|
| 1. 実施主体 | |
| 本事業を受託し、協議会の核となる自治体、もしくは経済団体等名 | 山口県 |
| 2. 現状及び課題 | |
| 地域内でのキャリア教育に関する現状 | <p>本県では、キャリア教育を教育活動の展開に当たっての基軸の一つとして位置付け、キャリア教育のねらいを「夢や目標をもち、一人の社会人として自立できるよう、自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力の育成」とし、小・中・高等学校等の積み上げによる系統的・計画的なキャリア教育の推進や、学校と家庭、地域、産業界等との連携による県民総がかりの取組を強化し、体験活動をはじめとする教育活動の一層の充実を図ることにより、志をもち、主体的に自らの未来を切り拓く子どもたちの育成をめざしている。</p> <p>【具体的な取組内容】</p> <p>□ 小・中・高等学校等を通じた系統的・計画的な取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育全体計画や年間指導計画の作成及び見直しによる組織的かつ効果的な取組の推進 ・キャリア教育実践事例集の活用(小・中) ・志を抱かせる教育の推進…小学校における「1/2成人式」、中学校における「立志式」の実施 ・中学生の進路選択のための情報発信の充実…キャリアガイドブック「夢サポート」(中学校2年生対象)の作成・配布 ・育成する力を明確にした職場見学(小)、職場体験(中)等の推進 ・普通科高校における「地域活性型インターンシップ」の普及・啓発を含めたインターンシップ推進事業の実施(高) <p>□ 学校と家庭、地域、産業界等との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携体制の強化をめざした「キャリア教育推進会議」の開催 ・小・中・高・特別支援学校の教員等による「キャリア教育実践セミナー」の開催 ・「やまぐち教育応援団」の活用を通じた全県的なキャリア教育の推進体制の強化 |
| 地域内でのキャリア教育に関する課題 | <p>【本県のキャリア教育に関する課題】</p> <p>ア 志をもち、主体的に自らの未来を切り拓く子どもたちの育成に向け、挨拶などの基本的な生活習慣やコミュニケーション能力等、子どもたちの社会的自立に向けた基礎的・汎用的能力を育成する教育や、志を抱かせる教育を推進する必要がある。</p> <p>イ 生徒の多様なニーズに対応した、職場体験・インターンシップ等の事業所を確保するとともに、地域産業のよさや特性の理解と次世代の担い手育成に向け、学校と家庭、地域、産業界等との連携強化をさらに図る必要がある。</p> <p>ウ 体験活動が一過性のものとして終結してしまわないように、事前事後指導の工夫を図るなど体験活動を充実させていく必要がある。</p> <p>エ 普通科高校では、大学等への進学に関心が向きがちであるが、その先の社会や職業に意識を及ぼせるため、インターンシップの一層の充実に取り組む必要がある。</p> |

3. 委託内容に対する取組

(1) 学校におけるキャリア教育に対する支援を目的として、地域の関係者が参画する会議体の設置及び運営

「キャリア教育推進会議」の設置・開催

本県のキャリア教育の基本方針や推進方策を検討するとともに、学校と家庭、地域、産業界等との連携強化を図るため、有識者、経済団体、行政機関、学校関係者、PTA、県市町教育委員会の各関係者をメンバーとした「キャリア教育推進会議」を設置・開催する。



| | 団体名 | 役割 |
|--------|------------|--------|
| 協議会の構成 | 大学教授等の有識者 | 会長、副会長 |
| | 経済団体等関係者 | 委員 |
| | 1次産業関係者 | 委員 |
| | 行政機関関係者 | 委員 |
| | 学校関係者 | 委員 |
| | PTA関係者 | 委員 |
| | 市町教育委員会関係者 | 委員 |
| | 県教育委員会関係者 | 委員 |

| | |
|--|---|
| <p>目標</p> | <p>子どもたち一人ひとりが夢や目標をもち、一人の社会人として自立できるよう、自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力の育成を図るキャリア教育の推進に向け、本県におけるキャリア教育の推進方策等を検討するとともに、学校と家庭、地域、産業界等との連携による県民総がかりの取組を強化する体制について協議する。</p> |
| <p>方針</p> | <ol style="list-style-type: none"> ① 本県独自のキャリア教育推進に向け、様々な立場から意見や情報を交換し、キャリア教育の基本方針を協議する。 ② 職場見学、職場体験、インターンシップ等の体験学習の充実に向け、学校と家庭、地域、産業界等との連携を強化する。 ③ キャリア教育に対して、県内の企業や諸団体の理解と協力を促進する。 ④ 地域社会と連携した取組により、子どもを育成している事例(コミュニティ・スクールの取組が進んでいる先進的な地域、体験活動の充実を積極的に行っている学校や企業など)を基に、体験活動の充実に向けた取組の具体的な有効策を探る。 ⑤ 学校、企業のそれぞれから、これまでの取組の成果と課題や悩みを出し合い、双方にとって具体的な有効策を模索し方向性を示すことで、子どもの育成につなげるとともに、今後のキャリア教育の推進に生かす。 ⑥ 「やまぐち教育応援団」の有効な活用方策について協議する。 |
| <p>事業の自立的かつ発展的な運営体制</p> | <ol style="list-style-type: none"> ① 大学教授等の有識者を会長とし、家庭、地域、産業界、行政、学校関係者等、様々な立場の委員で構成する。 ② 推進会議の協議内容を本県のキャリア教育推進事業に反映させるとともに、前年度の事業について点検・評価を行い、本年度の推進方策について協議する。 ③ 推進会議の委員が「キャリア教育実践セミナー」に参加し、キャリア教育の基本方針の普及を図る。 |
| <p>(2)学校の教育活動に対して行われる、社会人講師の派遣や企業等が作成する一定の教育コンテンツの提供などによる支援の促進</p> | |
| <p>①支援を提案する支援提供者を開拓すること。</p> | |
| <p>○ 既存の「やまぐち教育応援団」制度(子どもの教育活動を支援する県内の事業所や団体を登録・認証し、子どもの様々なキャリア教育、体験・学習活動の充実・活性化を図る制度)を活用する。各学校に対して、様々な分野における登録事業所の積極的な活用を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web上での情報提供を通じて制度の周知を図る。 ・推進会議の委員である経済団体関係者に協力を依頼する。 ・地域協育ネットの取組を通じた地域人材等の登録促進を図る。 <p>○ 各地域の「地域協育ネット」(中学校区をひとまとまりとした幼保・小・中・高の子どもの15年間の育ちを学校、家庭、地域で連携し、支援する仕組み)や「コミュニティ・スクール」との連携により、学校や児童生徒のニーズと地域や産業界とのマッチングを図ることで、地域社会と連携した体験活動の更なる充実をめざす。</p> | |
| <p>②支援に関する提案を学校に提示すること。</p> | |
| <p>○ 「キャリア教育推進会議」において、地域社会と学校の連携を図るための具体的方策について協議した内容を、県内の小・中・高等学校等の教員が集まる「キャリア教育実践セミナー」(8月に県内2か所で実施しているセミナーであり、学校の教員、保護者、地域や産業界から参加を募り、講演、事例発表、研究協議を実施)や「県市町キャリア教育連携・推進会議」(小・中学校におけるキャリア教育の充実に向けた協議等による市町教委との連携+A118強化の場)等で周知・徹底を図り、各学校で地域社会と連携したキャリア教育がより一層活発に行われるよう促す。</p> <p>○ 県教委が発行するWebニュース「ニューズレター」や「キャリア教育実践事例集」並びに「キャリア教育実践セミナー」等において、先進的な取組を紹介する。</p> | |

③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)。

- 「キャリア教育推進会議」や「キャリア教育実践セミナー」において、学校関係者と地域・産業界等の関係者が直接協議する機会を設ける。
- 「やまぐち教育応援団」のWebページで、登録している事業所が実施できる支援の方向性を具体的に紹介することで、学校が必要としている支援にマッチした支援事業所等を選択することを可能とする。

(3)学校の教育活動として校外で実施される職場見学、職場体験活動及びインターンシップ等に対する支援の促進

①インターンシップ等の実施場所として児童生徒の受入れを提案する支援提供者を開拓すること。

- 「キャリア教育推進会議」の委員である県内の経済団体関係者と学校や行政関係者が連携して支援提供者を開拓する。
- 地元の大学や企業が開催するキャリア教育に関する会議等において、事業所等に直接協力を依頼することにより、支援提供者を開拓する。

②インターンシップ等に関する支援提供者の提案を学校に提示すること。

- 「キャリア教育推進会議」において、各経済団体の代表者と各学校種の代表者、PTA団体等の代表者が学校におけるインターンシップ等の体験活動の充実を図るための具体的方策について協議した内容を、「キャリア教育実践セミナー」や、県市町キャリア教育連携・推進会議等で周知・徹底を図り、各学校が全体計画の中で設定した「育てたい生徒の姿」の実現に向け、学校内における体験活動がより一層充実するように支援する。
- 「やまぐち教育応援団」のWebページで、登録している事業所の情報を、地域別、支援できる活動別に紹介する。

③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)。

- 校長会の際に、学校長から各学校の取組の実態等を直接聴取するとともに、「やまぐち教育応援団」制度の活用を依頼する。
- インターンシップ推進事業(体験型、地域活性化型)等、様々な体験活動のモデルプランを各学校に示し、学校の実態や生徒のニーズに応じた体験活動の創意工夫を促す。

(4)その他の取組

- 高等学校においては、単県事業の「インターンシップ推進事業」において、全ての高等学校を対象として企業において1週間程度の就業体験を行う「体験型インターンシップ」と、普通科高校を対象とした「地域活性化型インターンシップ」を実施している。「地域活性化型インターンシップ」は、学校が地域の企業・事業所や大学・研究機関等と連携して、共同研究・共同開発、幅広い分野における就業体験、地域活性化に向けた取組などを半年以上継続して行うものである。
- 小・中学校の職場見学、職場体験については、実施する各学校が育成する力を明確にして連携先の企業に派遣することで、体験活動の充実を図る。
- 本県では、主体的に自らの未来を切り拓き、社会的自立ができる子どもの育成を図るキャリア教育を推進することとしており、そのための新たな取組についても、「キャリア教育推進会議」において協議や助言を行う。

4. 実施内容

| 実施時期 | 実施内容 |
|------|---|
| 7月 | 第1回「キャリア教育推進会議」の開催 (1年間のキャリア教育の基本方針、学校と家庭・地域・産業界等との具体的な連携方策について協議) |
| 1月 | 第2回「キャリア教育推進会議」の開催 (本年度の事業についての点検・評価、キャリア教育における優れた事例の発表、次年度の取組方針の協議) |
| 随時 | 「やまぐち教育応援団」Webページの更新、充実 |

5. 協議会の成果と課題

※計画段階で示していた検証方法等を踏まえ、客観的・具体的に記載すること。
※成果を踏まえた今後の課題についてもあわせて記載すること。

【成果】

○ 「キャリア教育推進会議」の設置

有識者、経済団体、1次産業、行政機関、学校、PTA、県市町教育委員会の各関係者をメンバーとした本会議を設置し、「主体的に自らの未来を切り拓き、社会的自立ができる子どもを育成する」という視点を踏まえて、学校と家庭、地域、産業界等との連携強化に関することなどについて協議するとともに、キャリア教育の方向性や職場体験・インターシップ等の体験活動への協力体制の強化など学校と家庭、地域、産業界等が一体となったキャリア教育の推進を行った。

○ キャリア教育推進会議の開催

「体験活動の充実に向けた、地域社会と連携した取組」について、地域社会と連携した優れた取組(先進的な地域・学校・企業など)の事例発表を行うとともに、学校・企業の双方にとって有効かつ具体的な方策を探るため、「学校と家庭、地域、産業界等との連携協力体制の新たな展開を探る」というテーマで、協議を行った。

協議の中では、それぞれの立場から、どのような形でキャリア教育に取り組むことができるか、という実践的な視点にたつての意見交換が行われ、「地域のお祭りなどの行事の中で、地元の小学校と連携して取り組むことが、地域の活性化とキャリア教育の相乗効果を生む」、「企業の新入社員研修に中学生や高校生が参加するとよいのでは。」「コミュニティ・スクールの仕組みを活用して、地域と学校が『Win-Win』の関係をつくると、長続きする」などの具体的な実践の提言がなされた。

会議を通じて、本県のキャリア教育の方向性が明確化し、キャリア教育に関わる体験活動等への協力体制が強化されるなど、学校と家庭、地域社会、産業界等が一体となったキャリア教育の推進が図られた。

○ キャリア教育実践セミナーの充実

昨年8月に行われたキャリア教育実践セミナーでは、文部科学省から、長田徹教科調査官を講師にお迎えし、「キャリア教育の現状と課題」と題して講演を行った。長田調査官の、実践に根ざした講演内容は、参加した学校関係者、PTA、産業界等関係者に大きな感銘を与え、事後のアンケートでも大変高い評価を得た。

○ 「やまぐち教育応援団」の充実

「やまぐち教育応援団」の活用については、登録数は5017事業所(個人登録2480人含む)(H28.2月末現在)となっており、90%を超える公立学校が「やまぐち教育応援団」を活用している。また、活用内容としては、地域の事業所における職場見学・就業体験が最も多く、講師・指導者としての活用が増加傾向にある。このように現在、多くの学校が教育応援団を活用しており、地域と密着したキャリア教育や体験活動が充実してきているとともに、教育応援団の登録数が増加したことにより、学校のニーズに応じた幅広い支援が可能となっている。

【課題】

○ 「キャリア教育推進会議」

各学校のキャリア教育の推進に対して、より具体的な提案が行われるよう協議を深めていくとともに、地域産業のよさや特性の理解と次世代の担い手育成に向け、学校と家庭、地域、産業界等との連携強化を更に図る必要がある。

○ 「キャリア教育実践セミナー」

産業界関係者等のより一層の参加促進を図るため、内容や開催日程等、キャリア教育推進会議の中で寄せられた意見を踏まえて必要な改善を行う必要がある。

○ 「やまぐち教育応援団」

より一層、地域の事業所等の活用が促進されるとともに、活用の質の高まりが図られるよう、コーディネーター等に対する制度の周知及び研修会等における好事例の紹介等が必要である。